

日本語・欧米系初中級学習者向け読解教材開発の方向性

上智大学国際教養学部 永須 実香†

現在、「リーディング・チュウ太」の派生プロジェクトとして、tutor.bunko (チュウ太ブンコキ) の開発が進められており、上級編は「日本語上級者のための 日本文学 珠玉の小品集」として、一部 (二作品) 公開が始まった。テキストとなる作品は、ネット公開されている青空文庫から選ばれた短編作品で、各教材のコンテンツは、意味表示機能を備えた本文、朗読音声、練習問題二種 (二択式「選ぶ問題」、記述式「考える問題」、表現文型リスト、語彙リスト、メール添削機能、ブログ機能である。

引き続き、初中級のコンテンツを開発していくための方向性を、現在、摸索中である。今回は、何が問題であるかをおさえ、少しずつではあるが見えてきた方向性を発表する。

まず、初中級レベルの学習者とは、何を意味するのか、語学学習のプロセス全体を俯瞰したうえで考えたい、その上で、初中級ですべき「読み」とは、何をすることかを問うてみたいと思った。それで、英語の達人と呼ばれる人たちの著書の中に、ヒントを求めてみたのだが、その中で、初中級学習者には、教材のていねいなフォローが必要だと改めて痛感した。また、反復練習に耐えうる内容の教材が必要だということも分かった。「読み」の学習プロセスについては、どの“達人”も初級では文法を完全にし、その後の読みでは構文に注意しながら精読する癖をつけよ、と言っている。細かいところまで注意して読む癖が身に付いたら、ある程度のスピードをつけて、波に乗る読み方へ移行させるのがよいというのが一致した意見であった。

こういった考えを踏まえて、現時点での結論として、初中級レベルでも「文学」をベースにするのが適切だと思い至った。(ここでいう「文学」とは、「知識を吸収」するのではなく、「事件に遭う」読み物という意味である。) また「初中級」レベルの学習者には、構文を正確に理解させる工夫を施す必要があるという認識を強く持った。

まずは、こういった認識をもとに、初中級教材を開発し、上級につながる日本語力を養成していきたい。

† 〒 東京都千代田区紀尾井町 7-1 , mnagasu@sophia.ac.jp

‡ <http://basil.is.konan-u.ac.jp/tutor/bunko/>